

5:1 【主】はモーセにこう告げられた。
5:2 「イスラエルの子らに命じて、ツアラアトに冒された者、漏出を病む者、死体によって身を汚している者をすべて宿営の外に追い出せ。

5:3 男でも女でも追い出し、彼らを宿営の外に追い出し、わたしがそのただ中に住む宿営を、彼らが汚さないようにしなければならない。」

5:4 イスラエルの子らはそのようにして、彼らを宿営の外に追い出した。【主】がモーセに告げられたとおりにイスラエルの子らは行った。

5:5 【主】はモーセにこう告げられた。

5:6 「イスラエルの子らに告げよ。男にせよ、女にせよ、他人に何か一つでも罪となることを行って【主】の信頼を裏切り、後になって、その人自身がその責めを覚えたときは、

5:7 自分が行った罪を告白しなければならない。その人は償いとして総額を弁償し、それにその五分の一を加えて、償いの責めを果たすべき相手に支払わなければならない。

5:8 もしその相手の人に、償いを受け取る権利のある親類がいなければ、その咎のために弁償されたものは【主】のものであり、祭司のものとなる。そのほか、その人のために宥めを行うための、宥めの雄羊もそうなる。

5:9 こうして、イスラエルの子らが祭司のところに携えて来るすべての聖なるものは、どの奉納物も祭司のものとなる。

5:10 聖なるささげ物は、人のもとにあればその人のものであるが、人が祭司に与えるものは祭司のものとなる。」

ツアラアト、漏出は伝染性の病でしたから、隔離しなくては全体に広がって重大なことになります。これらの人は本人も苦しんでいるのに、隔離されるのはかわいそうな気がします。しかし、だからといってそれをいい加減にはできないのが現実でもあります。

これは罪の現実を表わしているのです。罪をそのままにしておけば、必ず重大な問題が生じますし、何よりも聖なる神様の御名を汚すことになるのです。「わたしがそのただ中に住む宿営を、彼らが汚さないようにしなければならない。」と、主が言われる通りです。

「死体によって身を汚している者」も同様に、罪の現実を表わします。生命にあふれて生きることを求める神様は、死は悪であるということを人に徹底させる必要がありました。それで死体に触れる者は汚れると教えたのです。

以上は人の罪汚れと神様の聖を学ぶためですが、神様はそれだけのお方ではありません。このようなきよさを求められても、結局は心がツアラアトや死のようであった人間のためにイエス様が身代わりをなってくださいました。私たちが神の御国（宿営）から「追い出」されないように、イエス様が汚れた者とされ「追い出」されさばかれてくださったのです。

また悔い改めについても教えられています。「五分の一を加えて」とは、謝罪の意味が込められています。損をさせないのだから良いだろう…というのではないのです。何よりもそれは神様に対する謝罪でもあります。「その弁償された罪過のためのものは主のもの」とあるからです。私たちは罪を犯したとき、すなわち自分が原因で迷惑をかけてしまったとき、それは当事者とともに主に対して罪を犯したのだと知らなくてはなりません。

これらのことから、自分の罪・過ちへの対処として、主の目にかなった悔い改めを考えましょう。そしてそれを実行しましょう。イエス様の十字架がすでにあるので、悔い改める者には主が擁護してくださることを確信し、勇気を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

